

令和6年度 血液事業概要

あゆみ

第74号

目次

所長あいさつ.....	1
沿革.....	2
組織体制.....	15
群馬県赤十字血液センターの業務の流れ.....	18
献血の概況.....	18
献血推進の概況.....	21
骨髄ドナー登録事業.....	26
検査・製剤の概況.....	27
供給の概況.....	29
医薬情報活動の概況.....	30
統計資料.....	31
令和6年度 表彰（団体のみ表記）.....	42
令和6年度迄の献血記録.....	44

所長あいさつ



群馬県の血液事業の推進につきましては、日頃より県民の皆様をはじめ、献血協力団体、ボランティア、県・市町村、医療機関及び関係各位の皆様にはご支援ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。また、令和6年度においても多くの皆様に献血へのご協力をいただき、県内の医療機関からの血液製剤の要請に滞りなく供給することができました。重ねて御礼申し上げます。

私は、4月より群馬県赤十字血液センター所長を拝命いたしました。前職である群馬大学医学部附属病院では血液内科の医師として26年勤務し、15年前からは同病院の輸血部門の責任者としても勤務しておりました。血液内科診療は、その病気の特性上、多くの血液製剤なくしては成り立たず、自身でも今に至るまで多くの血液製剤を処方し、患者様に投与してきました。また、輸血部門の責任者になってからは、手術や救急医療ではなくてはならない治療であることを実感しております。医学が著しく進歩した現在でも輸血医療は、医療の重要なインフラであり、これ無くしては高度な医療も成り立たず、多くの命は救えません。

各医療機関では、輸血管理体制の充実やいわゆる適正使用の推進が行われたため、一般的な輸血用血液製剤（赤血球、血小板など）の需要は横ばいから微増にとどまっています。一方、血液由来の製剤を使った新たな治療法がいまも新たに開発されており、特に血漿分画製剤の需要は急速に増えています。血液事業の問題点は、近年の少子高齢化社会を背景に献血者数の減少、需要の高まりが予想されており、需給バランスを取ることが難しくなってきていることです。血液センターでは、2012年から全国を7つのブロックに分割した広域運用体制へと移行し、その問題に対応してきました。しかし、昨今の出生率の低下を見るとさらなる努力が必要であり、将来の輸血医療を見据えた取り組みが必要だと考えています。

今後も職員一同、多くの方が安心して献血できる環境づくりに取り組みながら、より安全な輸血用血液製剤の安定供給に向け努力してまいりますので、皆様方におかれましても、引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ここに令和6年度の実績をとりまとめましたので、ご高覧いただければ幸いです。

令和7年4月
群馬県赤十字血液センター
所長 横濱 章彦

沿革

●1962 年（昭和 37 年）

8. 15 県、市町村の援助により血液銀行を新築〔建設面積 209.51 m²〕

9. 1 初代所長 久保園善次郎就任（兼前橋赤十字病院院長）

10. 20 血液銀行採血業許可証認可となる（厚生省群薬第 9472 号）

医薬品製造業認可証認可となる（第 8356 号）

医薬品販売業認可証承認となる（第 43 号）

群馬県赤十字血液銀行の業務開始

移動採血車第 1 号（2 ベッド）を整備

愛称を県民より募集し「（おとおね号）」と決まる

ABO 式血液型（オモチ・ウラ）Rho 式血液型

梅毒血清学的検査（ガラス板法・緒方法）

○型力価測定（Low、High）実施



●1964 年（昭和 39 年）

8. 21 閣議決定（献血の推進について）

9. 肝機能検査（S-GOT）開始

●1965 年（昭和 40 年）

2. 13 血液銀行を血液センターに改称

8. 13 移動採血車おとおね 2 号（3 ベッド）を整備

8. 16 第 2 代所長 吉野文郁就任

●1966 年（昭和 41 年）

3. 31 事務室、保存室、検査室を増築（全建設面積 381.08 m²）となる

●1967 年（昭和 42 年）

2. 24 血液運搬車車庫を新築（45.37 m²）

●1968 年（昭和 43 年）

3. 26 移動採血車おとおね 3 号（2 ベッド）を整備（採血車 3 台となる）

9. 4 移動採血車第 1 号を廃車（37 年整備）（採血車 2 台となる）

●1969 年（昭和 44 年）

3. ○型力価測定廃止

●1970 年（昭和 45 年）

1. 24 開設以来延べ献血者 10 万人達成

9. 不規則抗体スクリーニング検査開始

●1971 年（昭和 46 年）

4. 1 血液代金差額について国庫補

- 助を受ける（昭 61.3.31 廃止）
- 4.15 群馬県交通安全保障協会より血液運搬車 1 台寄贈
7. 1 HBs 抗原検査開始（SRID 法）開始
9. 4 移動採血車車庫を新築（108 m²）
- 1972 年（昭和 47 年）
1. 1 免疫電気泳動法（IES 法）にて HBs 抗原・抗体検査を開始
- 3.23 移動採血車おとおね 1 号（3 ベッド）を整備（採血車 3 台となる）
- 1973 年（昭和 48 年）
- 6.21 赤十字アルブミン 20 販売開始
- 11.20 移動採血車おとおね 2 号（4 ベッド）を更新（40 年整備）
- 1974 年（昭和 49 年）
4. 1 血液代金自己負担金給付制度開始（昭 61.4 月廃止）
- 9.24 成分製剤 11 品目の許可を受ける
- 1975 年（昭和 50 年）
- 1.15 はたちの献血キャンペーンはじまる
- 8.19 移動採血車おとおね 3 号（4 ベッド）を更新（43 年整備）
10. 梅毒検査緒方法より RPR 法に変更
- 1976 年（昭和 51 年）
- 10.2 成分製剤 2 品目追加許可を受ける
- 11.27 トヨタ・カローラ群馬、カローラ高崎より献血運搬車 1 台寄贈
- 1977 年（昭和 52 年）
6. 7 上毛新聞社「愛の募金」より献血運搬車 1 台寄贈
- 12.1 物置を新築 28.32 m²
- 1978 年（昭和 53 年）
3. 4 開設以来延べ献血者数 50 万人達成
- 10.1 HBs 抗原検査 IES 法より R-PHA 法に変更
- 1979 年（昭和 54 年）
- 11.1 採血容器を瓶からバッグに全面変更する
- 11.26 移動採血車おとおね 5 号（5 ベッド）を整備（採血車 4 台となる）
- 1980 年（昭和 55 年）
- 3.26 検査サービス室、製剤準備室を増設（本館全建物面積 417.14 m²）
7. 肝機能検査 S-GOT より S-GPT に変更
- 10.1 献血登録制を始める
- 1981 年（昭和 56 年）
5. 7 生化学的検査機器 ACA6008N を導入
6. 2 抗 HBs 人免疫グロブリン「日赤」の販売開始
9. 1 生化学的検査結果の異常者への通知を開始
肝機能異常者で HBs 抗原陽性者へ通知を開始
- 12.18 日本石油より献血運搬車 日産 セドリック（ミスターセ

イフティー号) 1 台寄贈

●1982 年(昭和 57 年)

4. 1 献血手帳の一部改正となる
(供給記録欄を削除)
生化学的検査結果全員通知を
開始

8. 27 移動採血車おおとね 1 号(4
ベッド)を更新(47 年整
備)

9. 1 HBs 抗原検査結果陽性者に通
知を開始

●1983 年(昭和 58 年)

8. 9 開設以来延べ献血者 100 万人
達成

●1984 年(昭和 59 年)

3. 8 血液製剤 1 品目(分画プラズ
マ)の製造許可を受ける

4. 5 赤十字アルブミン 50 供給販
売開始

7. 24 移動採血車おおとね 3 号(4
ベッド)を更新(50 年整
備)

12. 20 県、市町村の補助を受け血液
センターを新築移転
(建物面積 2,660.07 m²、車庫
480 m²、物置 7.2 m²)

12. 24 医薬品製造業許可第 8581 号
を受け業務開始
血液センター採血業許可証
厚生省収薬第 34214 号
成分製剤 2 品目の追加製造承
認を受ける



●1985 年(昭和 60 年)

3. 28 HB ワクチン用製剤 2 品目追
加製造許可を受ける

7. 30 移動採血車おおとね 6 号(4
ベッド)を整備(採血車 5 台
となる)

3. 31 国庫金による血液代金給付制
度廃止

●1986 年(昭和 61 年)

4. 1 採血及び供血幹旋業取締法施
行規則の一部改正(400mL・
成分献血が導入)

第 3 代所長 藤井佐司就任
群馬県献血推進員 2 名設置

7. 生化学自動分析装置 機種変
更(ACA6008N より ACA8000
へ)

9. 12 移動採血車おおとね 2 号(4
ベッド)を更新(48 年整
備)

9. 16 多目的血球計数装置 E-4000
整備

10. 1 HTLV- I 抗体検査開始(PA
法)

10. 16 HIV 抗体検査開始(ELISA
法)

11. 6 成分採血装置 V50 整備し成
分採血を開始

12.18 血液検査（血算）サービス開始

12.23 移動採血車おおとね7号（4ベッド）を整備（採血車6台となる）

●1987年（昭和62年）

7.31 開設以来延べ献血者150万人達成

10. HIV抗体検査 ELISA法よりPA法に変更

10.7 プラズマコレクターシステム整備

●1988年（昭和63年）

1.21 自動血液型判定機（グルバマチック2000システム整備）

5.1 献血者自己申告制度（HIV）開始

9.28 大相撲大鵬親方より献血運搬車 トヨタ コロナ（大鵬号）1台寄贈

●1989年（平成元年）

1.8 移動採血車おおとね5号（5ベッド）を更新（54年整備）

2.10 神戸義二氏より献血運搬車カローラ（神戸号）1台寄贈

3.15 成分採血装置CS3000整備

3.31 登録・パーソナルコンピュータ（NEC 5200）整備

12.27 HCV抗体検査（ELISA法）、HBc抗体（HI法）開始

●1990年（平成2年）

3.6 成分採血装置オートフェレーシスC整備

5.21 オープン献血実施

6.25 バクスター社より器材運搬車

トヨタ ハイエース1台寄贈

10.8 移動採血車（おおとね6号）成分採血併用型に改造し採血車での成分採血を開始

12.1 コンピュータトータルシステム（NEC）整備

12.20 オープン採血用成分採血機材運搬車（コースタービッグバン）整備

●1991年（平成3年）

3.11 成分採血装置NDP整備

4.1 凝固因子製剤用原料血漿確保始まる（50万L）

9.16 4週6休制施行実施。

9.30 開設以来延べ献血者数200万人達成

12.25 群馬県骨髓データセンター業務開始

●1992年（平成4年）

1.21 赤血球M・A・P（日赤）製造許可を受ける

1.31 HCV抗体検査ELISA法からPHA法に変更

3.1 国内自給に向け凝固因子製剤の供給販売開始（クロスエイトM250、500、1000）

6. HCV陽性者通知開始（通知基準による）

12.3 赤血球M・A・P（日赤）製造開始

12.19 移動採血車おおとね1号（4ベッド）を更新（57年整備）

●1993年（平成5年）

2.1 新登録者カード発行

4.1 群馬県輸血懇話会設立

- 5. 1 成分採血装置ヘモネティクス MCS 整備
- 10. 1 高崎出張所を設置（高崎熱血倶楽部）イーストタワービル 1 階に開設
- 10. 15 移動採血車おおとね 7 号（4 ベッド）を廃車（採血車 5 台となる）
- 1994 年（平成 6 年）
- 2. 27 群馬県献血フェスティバル開催（伊勢崎市民文化会館）
- 3. 28 4 週 8 休制度施行実施
- 5. 18 血液 X 線放射線照射装置（MRB-1520A-TV）整備し依頼による照射血液供給を開始
- 7. 生化学自動分析装置 機種変更（ACA8000 より日立 7250 ハ）
- 9. 1 コンピュータ全国統一センターシステム（NEC）整備
成分採血装置ミニオートフェレーシス C 整備
- 11. 7 移動採血車おおとね 3 号（4 ベッド）を更新（59 年整備）
- 1995 年（平成 7 年）
- 6. 1 自動感染症検査機器 PK7200 を整備
- 1996 年（平成 8 年）
- 3. 28 検診車の整備
- 4. 1 第 4 代所長に松山四郎就任
第 3 代所長藤井佐司名誉所長に就任
- 6. 15 国際ソロプチミスト前橋より血液運搬車 スバル インプレッサ 1 台寄贈
- 9. 1 献血者全員の試験官方式による検体保管開始
- 9. 3 採血番号ラベルシート（ID カード）10 桁に変更
- 9. 26 開設以来延べ献血者数 250 万人達成
- 10. 出庫可否判定における検査履歴照合開始
- 11. 30 お年玉付郵便葉書寄付金より血液運搬車 三菱 レグナム 1 台寄贈
- 1997 年（平成 9 年）
- 1. 30 移動採血車（お年玉付郵便葉書寄付金）おおとね 6 号（4 ベッド）を更新（60 年整備）
- 3. 13 移動採血車おおとね 2 号（4 ベッド）を更新（61 年整備）
- 4. 1 医務課長設置により組織並びに処務規定の一部改正（2 部 1 データセンター 9 課 1 出張所 17 係）改組
- 9. ヒトパルボウイルス B19 抗原検査の評価試験開始
- 10. 1 職員定数 100 名となる
- 12. 28 血液 X 線照射装置（MBR-1520A-TM）を追加整備（2 機となる）
- 1998 年（平成 10 年）
- 2. 1 梅毒検査 RPR 法より TPPA 法に変更
- 3. 19 オープン献血会場で血小板採血を開始
- 4. 1 週休 2 日制実施
職員定数 105 名となる

- 7. 1 放射線照射血液が承認され薬価により供給開始（全血，赤血球M・A・P，濃厚血小板）
- 9. 1 前橋出張所（前橋ハートランド）大同生命前橋ビル1階に開設
- 12. 21 放射線照射血液が追加承認され供給開始（洗浄赤血球・白血球除去赤血球・解凍赤血球・合成血）
- 1999 年（平成 11 年）
- 1. 26 沖電気工業より保冷库付血液運搬車寄贈 日産 AD マックスバン保冷库付
- 2. 1 原料用血漿について当日以外の服薬者より PPP のみの採血始める
- 2. 26 移動採血車おおとね7号（4ベッド）を整備（採血車6台となる）
- 3. 5 前橋中央ライオンズクラブより魚八景ジュニア1台寄贈
- 4. 1 採血基準の改正により献血年齢 69 歳まで引き上げとなる
- 5. 12 統一システム全国献血者一元管理に移行となる
- 6. 2 群馬県赤十字有功会より東芝液晶データプロジェクター1台寄贈（創立 20 周年記念）
- 9. 1 核酸増幅検査（NAT）開始
- 2000 年（平成 12 年）
- 1. 1 HTLV-1 抗体検査陽性者に通知開始
- 2. 1 核酸増幅検査 500 本プールより 50 本プール検査に変更
- 2. 29 県の助成を受け血液センター1階部分を全面改修（供給部門に血液製品用保存室、製剤部門に二次更衣室等新設）、一部増築
- 3. 17 ヒトパルボウイルス B-19 抗原検査正式導入となる
- 5. 16 NAT 済み血小板供給を開始
- 7. 26 群馬県学生献血推進連合による献血キャラバン隊を編成し県内 11 市長に献血推進メッセージを届ける（28 日まで）
- 8. 28 血液センター増築及び改修工事開始
- 10. 3 検診車整備 日野 リエッセ II
- 11. 26 高崎出張所開設以来延べ献血者 10 万人達成
- 2001 年（平成 13 年）
- 2. 移動採血車おおとね9号（4ベッド）整備（採血車7台となる）
- 3. 30 県の補助を受け増築及び改修工事竣工（1,746.58 m²を増築し、総延べ床面積 4,406.65 m²）となる
- 4. 1 第5代所長に大月邦夫就任
- 5. 22 HCV 抗体検査、リエントリー開始
- 7. 3 血液センター増改築竣工記念式典
- 8. 6 赤十字アルブミン 25 販売開始
- 12. 28 開設以来延べ献血者数 300 万人達成
- 2002 年（平成 14 年）

- 2. 15 国際ソロプチミスト前橋より
血液運搬車 日産 ウイング
ロード 1 台寄贈
- 4. 1 太田出張所「太田 YOU 愛」を
東毛学習文化センター前に設
立
HCV 抗体陽性血液の核酸増幅
検査の開始により、HCV 抗体
検査陽性者希望者全員に通知
を開始
- 4. 10 太田出張所「太田 YOU 愛」東
毛学習文化センター前に開設
業務開始
- 7. 5 DONOR CARD 集発刊
- 7. 31 薬事法及び採血及び供血あつ
せん業取締法の一部を改正さ
れ名称も「安全な血液製剤の
安定供給の確保等に関する法
律」に変更され公布される
移動採血車おおとね5号（5
ベッド）を廃車（採血車6台
となる）
- 12. 31 移動採血車おおとね1号（4
ベッド）を廃車（採血車5台
となる）

●2003 年（平成 15 年）

- 4. 1 HBc 抗体陽性血液の核酸増幅
検査の開始により HBc 抗体検
査陽性者全員に通知を開始
- 6. 1 ホームページ開設
高崎出張所改修及び増設工事
竣工（81.33 m²を増設し総延
べ床面積 283.37 m²）となる
- 6. 13 献血者の献血歴の確認 遡及
調査の実施（梅毒・HBV・HCV
及び HIV）

- 10. 1 高崎出張所（高崎熱血倶楽
部）10 周年記念式典
- 12. 12 高崎出張所開設以来延べ献血
者 15 万人達成



●2004 年（平成 16 年）

- 1. 30 2 ヶ月間（60 日）貯留保管
済み新鮮凍結血漿供給開始
 - 3. 31 供給冷凍室（貯留保管用）増
築工事竣工（46.15 m²を増築
し、総延べ床面積 4,452.8
m²）となる
 - 6. 20 第二次血液事業統一システム
導入
 - 8. 15 献血後情報の対応手順の変更
（平 16. 7. 30 付厚生労働省
「輸血用血液等遡及調査に関
するガイドライン」に基づ
き）
 - 8. 28 核酸増幅検査 50 本プール検
査より 20 本プール検査に変
更
 - 8. 31 90 日間貯留保管済み FFP の
供給開始
 - 10. 1 献血者本人確認全国実施
 - 12. 28 120 日間貯留保管済み FFP の
供給開始
- 2005 年（平成 17 年）
- 3. 31 150 日間貯留保管済み FFP の
供給開始

- 4. 1 第6代所長に土田嘉昭就任
群馬県献血メールクラブの開始
- 7. 29 6ヶ月間（180日）貯留保管
済み新鮮凍結血漿供給開始
- 11. 1 第7代所長に遠藤敬一就任
- 2006年（平成18年）
- 3. 1 成分採血由来製剤の保存前白血球除去の実施
- 7. 13 群馬県立県民健康科学大学の
オープン献血会場を皇太子殿下
下がご視察
第42回献血運動推進全国大会
開催（群馬県総合スポーツ
センター）
サンデン株式会社より血液運
搬車 日産 エクストレイル
1台寄贈
富士重工業株式会社群馬製作
所より血液運搬車 スバル
フォレスター1台寄贈
群馬県病院協会、（社）群馬
県医師会、（社）群馬県歯科
医師会、（社）群馬県薬剤師
会、（社）群馬県看護協会よ
り器材運搬車 いすゞ エル
フ1台寄贈
- 8. 28 日赤ポリグロビン N 注 5%
2.5g/50mL の販売開始
- 9. 15 日赤ポリグロビン N 注 5%
0.5g/10mL、日赤ポリグロビ
ン N 注 5% 5.0g/100mL の販売
開始
- 9. 23 保存前白血球除去された成分
採血由来新鮮凍結血漿製剤の
供給開始

- 10. 1 献血カードの導入
検査業務が埼玉県赤十字血液
センターへ集約
- 10. 26 血小板成分採血における保存
前白血球除去及び初流血除去
の実施



- 2007年（平成19年）
- 1. 16 全血採血由来赤血球製剤の保
存前白血球除去及び初流血除
去の実施
- 3. 3 国際ソロプチミスト前橋より
血液運搬車 スバル インプ
レッサ1台寄贈
- 8. 1 保存前白血球除去された全血
採血由来新鮮凍結血漿製剤の
販売開始
- 11. 14 有効期間「採血後4日間」に
変更となった血小板製剤の供
給開始
- 2008年（平成20年）
- 2. 8 血清学的検査を凝集法から化
学発光酵素免疫法（CLEIA
法）へ変更（同年8月全国で
導入）
- 7. 21 輸血用血液製剤の新バーコー
ド表示による製造開始
- 7. 23 初流血除去を実施した成分採
血由来新鮮凍結血漿の供給開

- 始
8. 新 NAT システムへ切り替え
(HIV-1 グループ 0 及び HIV-2 の検出も可能)
- 2009 年 (平成 21 年)
1. 29 前橋出張所改装工事竣工
 2. 11 前橋出張所「前橋ハートランド」10 周年記念イベント開催 (於 ユナイテッド・シネマ前橋)
 3. 10 移動採血車おとおね 3 号 (4 ベッド) を整備
 3. 15 糖尿病関連検査 (グリコアルブミン検査) の開始
 4. 1 第 8 代所長に小泉武宣就任
高崎出張所 (高崎熱血倶楽部) の定休日が第 4 月曜日に変更
 4. 23 移動採血車おとおね 2 号 (4 ベッド) を廃車 (採血車 5 台となる)
 11. 23 第 1 回献血感謝デー開催 (於 イオンモール高崎)
 12. 28 血漿分画製剤の販売名の変更に伴い、日赤ポリグロビン N5% 静注 5g/100mL の販売開始
他の血漿分画製剤に関しても新販売名の製剤を順次販売開始
- 2010 年 (平成 22 年)
1. 27 1980 年から 1996 年の英国滞在歴の献血制限が「1 日以上」(1 泊以上) から「通算 1 ヶ月以上」(31 日以上) に緩和
 2. 5 血小板製剤及び成分採血由来

血漿製剤の販売名の変更に伴い、(照射) 濃厚血小板-LR 「日赤」と (照射) 濃厚血小板 HLA-LR 「日赤」の供給開始。成分採血由来血漿製剤については 6 ヶ月間 (180 日間) 貯留保管後、順次供給開始

2. 13 高崎城ライオンズクラブより医療用デジタル体重計 1 台寄贈
5. 31 血液センター 2 階間仕切り改修工事竣工
11. 23 第 2 回献血感謝デー開催 (於 イオンモール高崎)
12. 14 高崎出張所高崎熱血倶楽部採血業務を廃止
12. 15 高崎出張所高崎駅献血ルーム Harmony (JR 高崎駅東口 3 階イーサイト内) 業務開始
12. 28 血球計数検査サービス (8 項目) を 200mL 全血献血へ拡充開始



高崎駅献血ルーム Harmony

- 2011 年 (平成 23 年)
2. 15 (財) 日本宝くじ協会助成事業「移動採血車の整備事業」による移動採血車 (4 ベッド) を整備

- (採血車6台となる)
- 3. 7 移動採血車おとおね7号(4ベッド)を廃車(採血車5台となる)
 - 4. 9 東日本大震災対策支援要員として職員を派遣(計5回)
 - 7. 27 赤十字アルブミン5%静注12.5g/250mLの販売開始
 - 8. 16 群馬県より[平成23年度献血・骨髄ドナー登録推進業務(緊急雇用創出事業)]委託を受託(9.1実施)
 - 11. 23 第3回献血感謝デー開催(於イオンモール高崎)
- 2012年(平成24年)
- 4. 1 広域事業運営体制の開始(1部 1データセンター 6課 3出張所 19係)改組
 - 8. 6 献血血液の検査基準の変更
輸血後のB型肝炎対策として「HBc抗体(C.O.I.)1.0以上12.0未満かつHBs抗体価200mIU/mL未満」の献血者に対する献血制限の実施
 - 10. 1 シャーガス病に係る安全対策開始
 - 11. 23 第4回献血感謝デー開催(於イオンモール高崎)



●2013年(平成25年)

- 1. 16 「献血の同意説明書」の導入
- 1. 26 日赤ポリグロビンN10%静注5g/50mL、日赤ポリグロビンN10%静注10g/100mLの販売開始
- 2. 4 太田出張所改修工事に伴う採血業の休止
- 2. 26 血液センターの1階製造部門に係る部分の改修工事開始
- 3. 8 災害救護機材配備(タブレット型PC端末5式)
- 3. 25 災害救護資材配備(雨衣・防寒着)
- 3. 27 災害救護資材配備(非常食)
- 3. 31 血液センターの1階製造部門に係る部分の改修工事完了
- 5. 2 太田出張所太田献血ルーム業務開始
- 9. 3 成分採血由来の新鮮凍結血漿の容量を450mLから480mLに変更。
3つの製剤規格容量を整数倍へ(120mL、240mL、480mL)
- 11. 24 第5回献血感謝デー開催(於イオンモール高崎)



太田献血ルーム

- 2014年(平成26年)
- 1. 28 災害救護機材配備(ノート型PC端末2台、デジタルカメ

- ラ1式)
- 3.27 災害救護資材配備（非常食）
 - 4. 1 第9代所長に林 泰秀就任
 - 5.11 血液事業情報システム稼働（供給部門）
 - 6.25 血液事業情報システム稼働（全部門）
 - 8. 1 個別N A T検査開始
 - 9.29 関東甲信越ブロックでの血小板製剤分割開始
 - 10.1 検査サービス通知書（ハガキ）新様式開始
 - 11.24 第6回献血感謝デー開催（於イオンモール高崎）
 - 2015年（平成27年）
 - 2.23 前橋出張所改修工事に伴う採血業の休止
 - 2.26 災害救護機材配備（発電機1台）
 - 2.28 前橋出張所前橋献血ルーム業務開始
 - 3.10 災害救護資材配備（スノーダンプ5台、スコップ10本、ストーブ3台）
 - 3.25 災害救護資材配備（非常食）
 - 3.31 血漿分画製剤の全製剤販売終了
 - 7. 8 北関東高校献血打合せ会開催
 - 11.22 第7回献血感謝デー開催（於けやきウォーク前橋）
 - 2016年（平成28年）
 - 2. 2 （財）日本宝くじ協会助成事業「移動採血車の整備事業」による移動採血車（4ベッド）を整備
 - 2.19 災害救護機材配備（ADバ

- ン）
- 3.20 献血模擬体験「キッズ献血」を実施（於イオンモール高崎）
 - 3.30 移動採血車おおとね9号を廃車
 - 4. 1 ALT 検査による製品除外基準の変更
血液センター広報誌 Yell 創刊
 - 9.13 照射洗浄血小板-LR「日赤」及び照射洗浄血小板 HLA-LR「日赤」の供給開始
 - 11.23 第8回献血感謝デー開催（於けやきウォーク前橋）
 - 12.16 災害救護機材配備（スチールラック）
 - 2017年（平成29年）
 - 2.27 血小板採血調整システム稼働
 - 2.28 災害救護資材配備（トラベルバッグ）
 - 3.20 第2回キッズ献血（於イオンモール高崎）
 - 3.22 災害救護資材配備（ヘルメット）
 - 3.24 災害救護資材配備（非常食）
 - 4. 1 献血者の不規則抗体スクリーニングの検査法変更
 - 5.18 国際ソロプチミスト前橋より献血広報車 スバル インプレッサ1台寄贈
 - 11.18 全社統合情報システム導入
 - 11.26 第9回献血感謝デー開催（於けやきウォーク前橋）
 - 12.19 災害救護資材配備（テント）



前橋献血ルーム

●2018 年（平成 30 年）

- 2. 21 災害救護資材配備（非常食）
- 3. 21 第 3 回キッズ献血（於 イオンモール高崎）
- 4. 1 第 10 代所長に丸山 健一就任
- 10. 29 献血推進・予約システム（CMS）導入
- 11. 25 所長感謝状贈呈式開催（於 けやきウォーク前橋）
- 12. 6 災害救護機材配備（スポットエアコン 2 台、ダクト 2 本）

●2019 年（平成 31 年、令和元年）

- 1. 6 第 10 回献血感謝デー開催（於 けやきウォーク前橋）
- 2. 19 災害救護資材配備（非常食）
- 3. 21 第 4 回キッズ献血（於 イオンモール高崎）
- 10. 24 第 11 回献血感謝デー（於 けやきウォーク前橋）
- 12. 17 災害救護機材配備（大判インクジェットプリンター）

●2020 年（令和 2 年）

- 3. 25 災害救護資材配備（非常食）
- 4. 1 移動採血車おとおね 1 号（4 ベッド）を更新
- 4. 1 移動採血車おとおね 3 号（4

ベッド）を更新

- 9. 30 災害救護機材配備（ヤマハ発電機一式）
- 8. 5 HEV の個別 NAT スクリーニング導入
- 11. 12 AKB48Team 8 清水麻璃亜さん群馬県献血推進ガールに就任

●2021 年（令和 3 年）

- 2. 10 災害救護資材配備（非常食）
- 3. 12 災害救護資材配備（非常食）

●2022 年（令和 4 年）

- 1. 採血前検査における指先穿刺導入
- 2. 3 災害救護機材配備（特定小電力トランシーバー）
- 2. 16 災害救護資材配備（非常食）
- 3. 25 輸血用血液製剤への添付文書の同梱廃止
- 8. 2 災害救護資材配備（ポータブル電源 2 台）
- 9. 28 献血 Web 会員サービス「ラブラッド」のアプリ化による受付業務のデジタル化運用開始

●2023 年（令和 5 年）

- 2. 15 災害救護資材配備（非常食）
- 3. 15 赤血球液-LR「日赤」の有効期間延長（28 日間）
- 4. 1 第 11 代所長に外松 学就任
- 11. 9 災害救護資材配備（防災用マルチライト一式）

●2024 年（令和 6 年）

- 2. 5 健診車更新（2 台）
- 2. 9 災害救護資材配備（非常食）
- 3. 1 照射凍結赤血球-LR「日赤」用時解凍洗浄の供給開始
- 6. 18 災害救護機材配備（スポット

ヒーター2台)

6.19 災害救護機材配備 (クールジ
エッター2台)

7. 7 延べ献血者 500 万人達成

8. 1 テレビアニメ「菜なれ花な
れ」コラボキャンペーン実施

●2025 年 (令和 7 年)

2.12 災害救護資材配備 (非常食)

2.25 災害救護資材配備 (ヘルメッ
ト)

組織体制

群馬県赤十字血液センター



- 所在地 〒379-2154
群馬県前橋市天川大島町
2-31-13
- 開設年月日 昭和59年12月20日
- 敷地面積 3,835.73 m²
- 建物の構造 本館棟／鉄筋コンクリート造
地下1階 地上2階
(塔屋付)
別館棟／鉄骨造 地上3階
(塔屋付)
- 延床面積 4,452.8 m²

高崎駅献血ルーム Harmony

- 受付時間 全血献血／10：00～13：00
14：00～17：30
成分献血／10：00～12：30
14：00～17：00
- 休業日 年末年始
- 床面積 325.58m²
- ベッド数 11ベッド
(全ベッド液晶テレビ付)
- 採血装置 成分・全血採血装置



〒370-0849 群馬県高崎市八島町222 JR高崎駅東口3階 イーサイト内
TEL027-327-8139 FAX027-327-8143



前橋献血ルーム

- 受付時間 全血献血／10：00～13：00
14：00～17：30
成分献血／10：00～12：30
14：00～17：00
- 休業日 年末年始
- 床面積 310.19 m²
- ベッド数 10ベッド
(全ベッド液晶テレビ付)
- 採血装置 成分・全血採血装置



〒371-0805 群馬県前橋市南町3-9-5 (大同生命ビル1F)
TEL027-220-5522 FAX027-220-5523

※アクセル前橋橋内立体駐車場は、ご利用いただけません。ご注意ください。



太田献血ルーム

受付時間 全血献血／10：00～13：00
 14：00～17：30
 成分献血／10：00～12：30
 14：00～17：00

休業日 年末年始

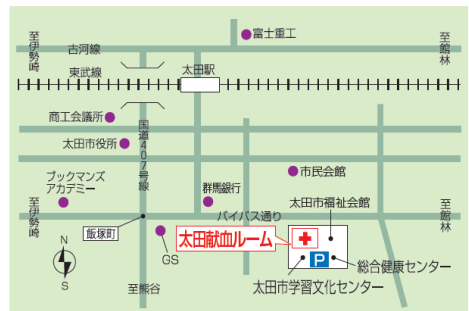
床面積 396 m²

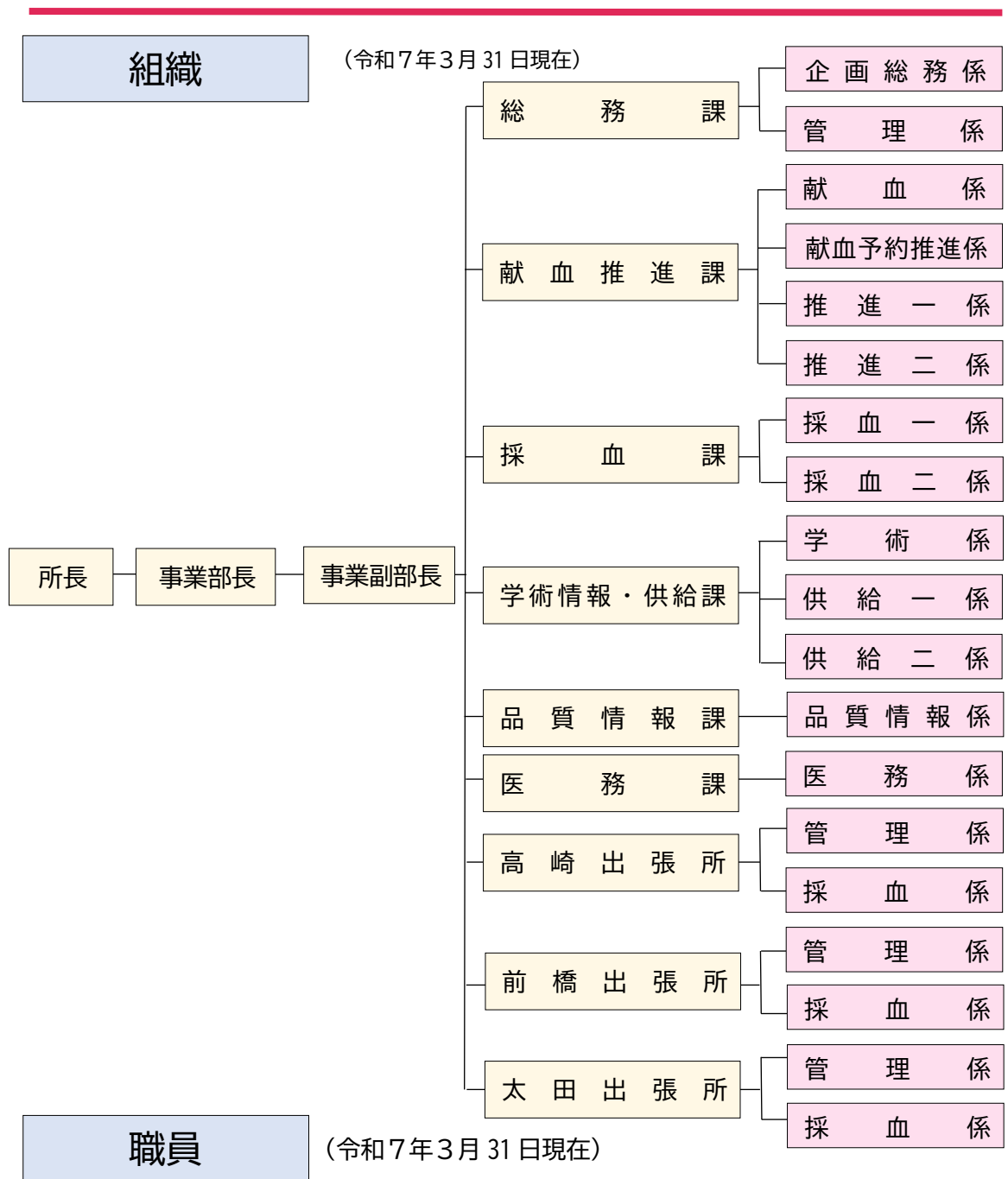
ベッド数 10 ベッド
 (全ベッド液晶テレビ付)

採血装置 成分・全血採血装置



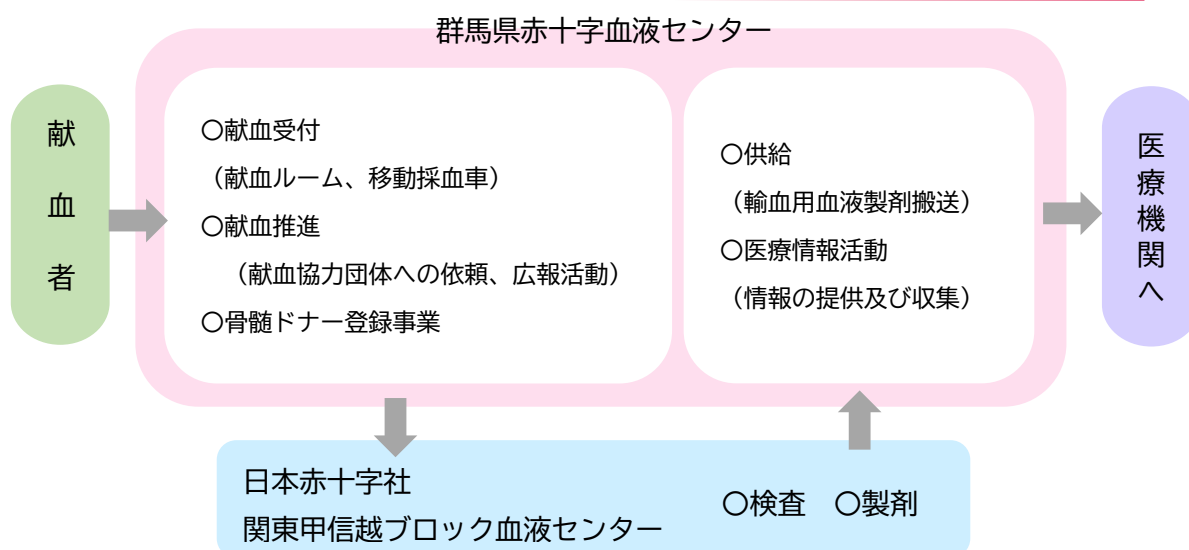
〒373-0817 群馬県太田市飯塚町1549-2(太田市学習文化センター前)
 TEL0276-60-3300 FAX0276-49-3300





医 師	薬 剤 師	看 護 師	臨床検査技師	事 務 職 員	合 計
1	2	27	1	55	86

群馬県赤十字血液センターの業務の流れ



献血の概況

令和6年度、県民の皆様のご理解とご協力をいただき、県内で延べ88,505名の献血協力をいただきました。おかげさまで県内の各医療機関へ輸血用血液製剤を滞りなく供給することが出来ました。

献血者数につきましては、受付者数95,132名（前年度比99.9%）、献血者数88,505名（前年度比101.8%）でした。

献血種類別の内訳は全血献血者数60,046名（前年度比102.1%）、成分献血者数28,459名（前年度比101.3%）でした。

全血献血者数のうち400mL献血者数は55,992名（前年度比101.6%）、200mL献血者数は4,054名（前年度比109.7%）でした。200mL献血を1単位として換算すると1,160,838単位（前年比101.9%）でした。また、全血献血における400mL献血構成比は93.2%（前年度比0.5%減）でした。

一方、成分献血における血小板成分献血者数は8,614名（前年度比92.2%）、血漿成分献血者数は19,845名（前年度比105.8%）でした。

令和6年度の献血推進対策として「400mL全血献血、成分献血の推進」、「献血WEB会員サービス「ラブラッド」の加入促進」及び「若年層献血者確保」を重点的に努めました。更に、群馬クレインサンダーズとの協力体制を構築し、キャンペーン活動やSNSを活用する等の対策を講じて広く県民の皆様へ啓発を行ないました。

今後も引き続き安全な輸血用血液製剤の安定供給のため取り組んでまいります。

1 献血ルーム

■高崎出張所：愛称「高崎駅献血ルーム Harmony」

「高崎駅献血ルーム Harmony」は、交通やショッピングに便利な JR 高崎駅東口 3 階イーサイト内に平成22年12月15日に開設しました。

内装は「音楽のある街高崎」をイメージしたものとなっており令和6年7月には、待合ロビーのソファをリニューアルし、くつろいで休めるとご好評を頂いております。また、多くのボランティア団体に協力をいただいております、日々多くの献血者の方にお越し頂いております。

363日開設：受付者数 19,883名

献血者数 18,556名（1日平均献血者数51.1名、施設別構成比21.0%）

献血種類別では全血献血者数が8,444名（構成比45.5%）、内400mL献血者8,178名（400mL献血率96.8%）成分献血者数が10,122名（構成比54.5%）

■前橋出張所：愛称「前橋献血ルーム」

「前橋献血ルーム」は、県内2番目の献血ルームとして、JR前橋駅南口の大同生命ビル1階に、平成10年9月1日に開設いたしました。平成27年2月にロビーをリニューアル、また、令和3年2月にソファの張り替えを行い、温かい陽が降りそそぐ森の中に居るようなイメージに生まれ変わりました。皆様のご支援ご協力と高等学校インターアクトクラブをはじめ多くのボランティアの方々に支えられております。

363日開設：受付者数 16,760名

献血者数 15,857名（1日平均献血者数43.7名、施設別構成比17.9%）

献血種類別では全血献血者数が6,491名（構成比40.9%）、内400mL献血者6,287名（400mL献血率96.9%）成分献血者数が9,366名（構成比59.1%）

■太田出張所：愛称「太田献血ルーム」

「太田献血ルーム」は平成14年4月10日に、太田市飯塚町の東毛学習文化センター（現太田市学習文化センター）前に開設いたしました。県内一の広さを誇り、全国的に珍しい単独平屋建ての施設です。平成25年5月2日には、広々としたロビーのカジュアルなオープンスペースのカフェスタイルにリニューアルオープンしました。また、環境に配慮した街づくりを目指す太田市に倣い、ソーラーシステムを導入したエコな献血ルームです。

364日開設：受付者数 17,207名

献血者数 16,003名（1日平均献血者数44.1名、施設別構成比18.1%）

献血種類別では全血献血者が7,032名（構成比43.9%）、内400mL献血者6,935名（400mL献血率98.6%）成分献血者が8,971名（構成比56.1%）

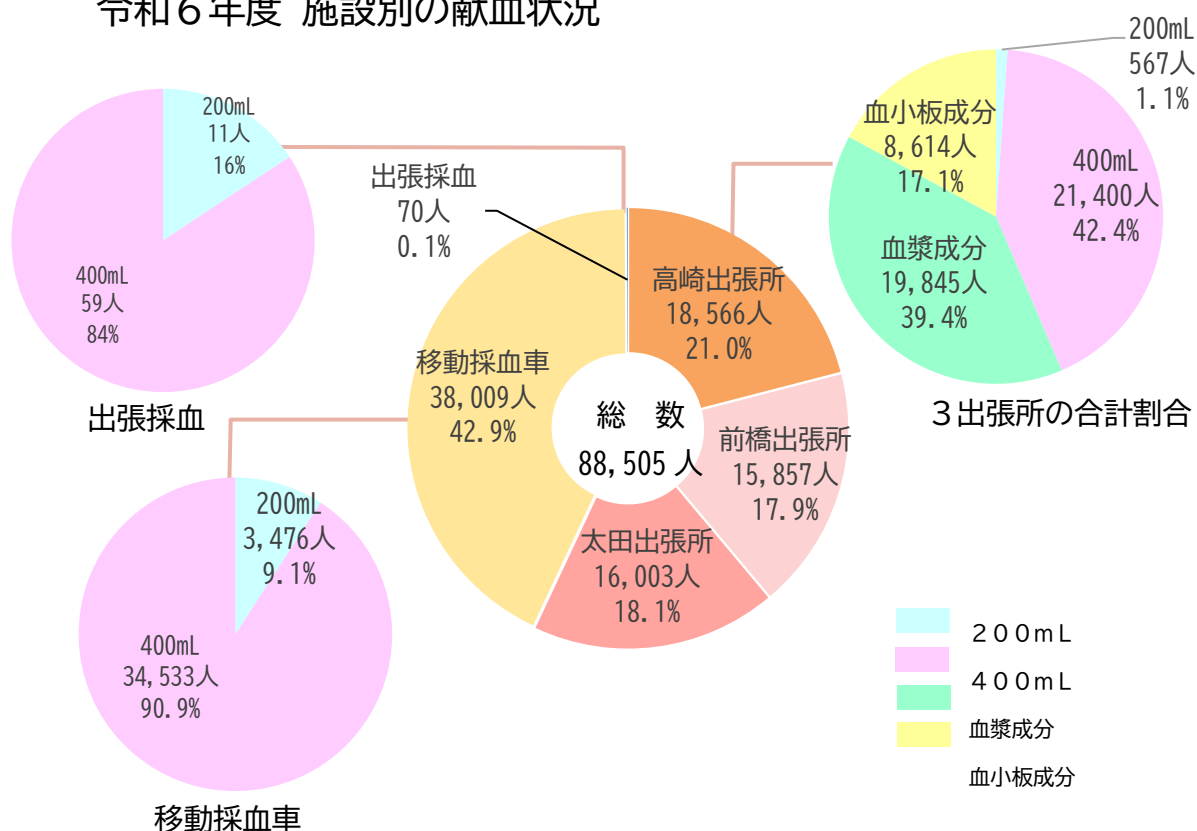
2 移動採血車

県内各献血会場にて献血を行なうため、4台の移動採血バスを運用しています。令和6年度は延べ815台稼働しました。受付者数は41,208名（前年比102.1%）、献血者数は38,009名（1台平均46.6名）（前年比103.5%）でした。なお、全血献血に占める400mL献血構成比は90.9%（前年度比0.1%減）でした。

3 出張採血

移動採血バスの配車が困難な場所において会議室等を献血会場にして実施する出張献血を、1会場で行いました。受付者数は74名、献血者数は70名でした。

令和6年度 施設別の献血状況



献血推進の概況

広報・キャンペーン活動

1. 献血推進ポスター
プロバスケットボールチーム
「群馬クレインサンダーズ」



2. イオンモール太田「第1回キッズ献血」
日程 令和6年5月12日（日）
場所 イオンモール太田
内容 献血の模擬体験

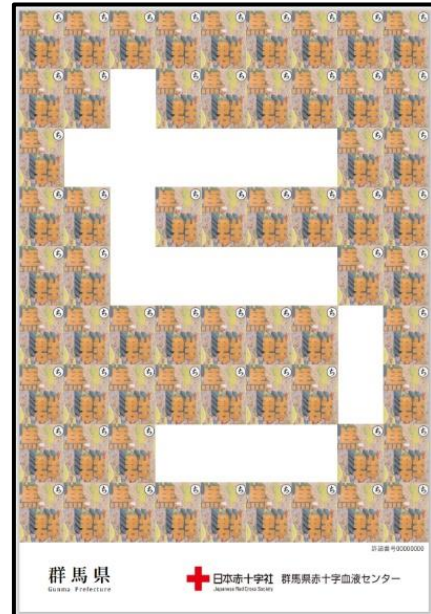


3. 群馬県延べ献血者500万人達成！「記念クリアファイル」をプレゼント

日程 令和6年7月13日（土）～7月31日（水）

場所 群馬県内献血ルーム、移動採血会場

内容 期間中、献血協力者に
「記念クリアファイル」を配付



4. TVアニメ『菜なれ花なれ』献血応援予約キャンペーン

日程 令和6年8月1日（木）～8月31日（土）

場所 群馬県内献血ルーム、移動採血会場

内容 期間中、予約のうえ400mL献血協力者に「オリジナルクリアファイル」、さらにラブラッド会員には「オリジナルうちわ」を配付



©nnp/nhp

5. 第14回夏休み親子献血教室

日程 令和6年8月7日（水）・8月8日（木）

会場 群馬県赤十字血液センター

内容 血液や献血についての学習、献血バスでの献血模擬体験、埼玉製造所の見学、血液保存庫の見学、血液運搬車の試乗



6. 全国学生クリスマス献血キャンペーン

日程 令和6年12月15日（日）・12月22日（日）

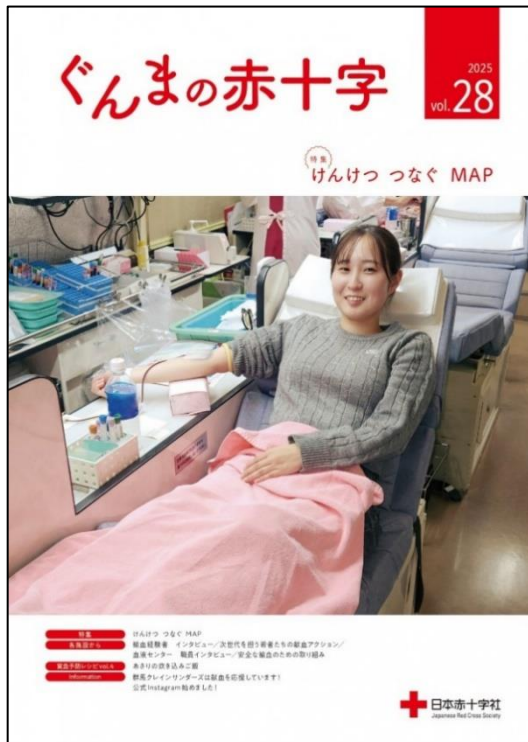
会場 けやきウォーク前橋

内容 学生ボランティアによる献血の呼びかけ及び献血協力者へオリジナルグッズを進呈

主催 群馬県学生献血推進連盟



7. 広報誌 ぐんまの赤十字
年1回発行



8. SNSによる情報発信

群馬県赤十字血液センター公式Facebook



FacebookID 100063535059694



@gunmakenketsu

献血 Web 会員サービス「ラブラッド」について

医療機関へ安定的に血液を供給し、輸血を受けられる患者さんが安心して治療を受けられるよう、輸血用の血液を十分に確保する必要があります。日本赤十字社では、平成18年に「複数回献血クラブ」を設立し、継続的に献血にご協力いただける方を募集してきました。そして、平成30年10月より利用者の方へのサービス向上を目的として、献血Web会員サービス「ラブラッド」へリニューアルしました。

ラブラッドに会員登録していただくと、血液の検査結果等を含む献血記録が献血後数日で確認できるほか、献血協力や予約等に応じてポイントが貯まり、一定のポイント数で記念品と交換できます。

また、住所やメールアドレス等の登録者情報もラブラッド上で変更が可能です。さらに、令和4年9月にはスマートフォン用アプリがリリースされ、「アプリ版献血カード」や「事前Web問診回答機能」の導入、「プレ会員」の登録等を開始しました。「プレ会員」とは献血可能年齢未満の方、献血未経験の方を対象とした会員制度です。プレ会員は献血に関するコンテンツの閲覧やクイズに答えることでポイントを貯めることができるほか、

献血可能年齢までのカウントダウンがアプリ上に表示されます。献血を経験したことのない若い方々がプレ会員を通して早くから献血に触れることで、将来の若年層献血協力が期待されます。（※プレ会員の登録にはラブラッドアプリのダウンロードが必要です。ブラウザ版には対応しておりません。）

また、ラブラッドでは全国の献血会場（一部を除く）の献血をWebやアプリで予約できます。予約機能については会員登録をしなくても利用することができるほか、献血が初めての方もラブラッド上から予約のうえ事前に献血者情報の入力が可能です。

ラブラッド会員の皆様には、定期的にメール・LINEの配信を通して献血へのご協力をお願いしています。医療機関から緊急の要請があった場合にも即時に情報発信ができるため、献血者と患者を繋ぐ救命のネットワークとしてラブラッドはその重要性を高めています。その他にも県内の献血ルームや献血バスのキャンペーン・イベントのお知らせなど、献血者と血液センターを繋ぐツールとしても活用しています。

令和6年度は献血依頼・要請およびキャンペーン等の情報を延べ979,899件配信し、32,493名（応諾率3.3%）の方に献血のご協力をいただきました。

今後も継続的に会員数増加に勤しむとともに、より良いサービスを提供し、会員の皆様にとって利便性の高い情報ツールとなるよう努めます。

ラブラッド会員数 70,146名

ラブラッドプレ会員数 1,853名（令和7年3月31日現在）

献血サポーター

献血サポーターとは、医療に必要な血液を献血によって安定的に確保するために、献血や献血推進活動に積極的に協力いただける企業・団体のことです。献血サポーターとなった企業・団体には、「献血サポーター・ロゴマーク」を日常の企業活動等において活用いただいています。

国民の医療を支える献血のさらなる推進を図っていただき、また、社会貢献活動である献血活動を国民に広くPRする機会として「献血サポーター」へのご参加をお願いしています。

※このロゴマークは企業・団体が行う「献血活動」を応援するため、厚生労働省が製作したものです。

※このマークの使用にあたっては、「献血サポーター」活動への参加が必要となります。



献血サポーター

骨髄ドナー登録事業

日本赤十字社と骨髄データセンター事業（造血幹細胞事業）の関わりは、平成3年度に国からの依頼を受け、骨髄データバンク登録事業者として中央骨髄データセンター及び各地域骨髄データセンターを設置し、骨髄バンクドナー登録希望者を受け入れることから始まりました。そして、平成25年10月1日には国から「造血幹細胞提供支援機関」の指定を受けました。（関連法「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」平成26年1月1日施行）

支援機関の主な業務として、献血現場における骨髄ドナー登録推進活動が挙げられます。群馬県赤十字血液センターは、群馬県及び群馬県骨髄バンク推進連絡協議会と協同して、県内の骨髄ドナー登録を推進しています。

令和6年度、群馬県内の新規骨髄ドナー登録者数は860名でした。その内、献血バスと併行した骨髄ドナー登録会（献血併行型登録会）での登録は724名でした。

令和6年度 骨髄ドナー登録受付状況

単位：人

受付施設	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
高崎駅献血ルーム Harmony	3	5	3	5	0	6	9	6	3	5	1	2	48
前橋献血ルーム	5	4	6	6	6	5	10	4	2	2	4	0	54
太田献血ルーム	3	2	4	1	2	4	8	2	3	2	1	2	34
献血併行型登録会	93	77	37	76	79	91	28	60	66	23	46	48	724
合計	104	88	50	88	87	106	55	72	74	32	52	52	860

令和6年度 骨髄ドナー登録取消状況

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
取消者数	25	33	27	30	26	27	30	29	40	41	40	33	381

取消の主な要因は、「年齢超過」や「調整結果」などによるものです。

骨髄ドナー登録状況

群馬県内 〔全国〕

総登録者数： 12,195人 〔994,918人〕

実登録者数： 7,490人 〔562,452人〕

登録取消者数： 4,705人 〔432,466人〕 令和7年3月31日現在

群馬県内の骨髄ドナー登録受付窓口（固定施設）

○高崎駅献血ルーム Harmony	}	〔受付時間〕	10：00 ～ 12：00
○前橋献血ルーム			14：00 ～ 17：00
○太田献血ルーム		〔休業日〕	年末年始

検査・製剤の概況

群馬県で献血していただいた血液は、関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所へ運ばれ、血液型や感染症などの検査を行い輸血用血液製剤として製造されます。

その後、製造された輸血用血液製剤は群馬県赤十字血液センターに届けられ学術情報・供給課で保管しています。

日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所の業務



- 開設年月日 平成 24 年 2 月 14 日
 - 所在地 〒355-0071
埼玉県東松山市大字新郷 493-1
 - 敷地面積 9,787.08 m²
 - 建物の構造 鉄骨造地上 3 階建
 - 延床面積 11,947.31 m²
- 関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所は、関東甲信越 8 都県（群馬県、埼玉県、栃木県、新潟県、長野県、茨城県、山梨県及び東京都の一部）で献血していただいた血液の検査及び製造業務を行う施設です。

●検査

輸血による副作用や感染症予防のために血液型検査、感染症関連検査、献血者にお知らせする生化学検査、血球計数検査などを行います。

検査項目

- ・血液型検査：
A B O 血液型検査、Rh 血液型検査、不規則抗体検査、HLA 検査（一部）
- ・感染症関連検査：
梅毒血清学的検査、B 型肝炎ウイルス検査（HBs 抗原、HBs 抗体、HBc 抗体）、C 型肝炎ウイルス検査（HCV 抗体）、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）（HIV-1、2 抗体）、HTLV-1 抗体検査、ヒトパルボウイルス B19 検査
- ・生化学検査：
ALT、γ-GTP、総蛋白（TP）、アルブミン（ALB）、アルブミン対グロブリン比（A / G 比）、コレステロール（CHOL）、グリコアルブミン（GA）
- ・血球計数検査：
赤血球数（RBC）、ヘモグロビン濃度（Hb）、ヘマトクリット値（Ht）、平均赤血球容積（MCV）、平均赤血球ヘモグロビン量（MCH）、平均赤血球ヘモグロビン濃度（MCHC）、白血球数（WBC）、血小板数（PLT）
- ・核酸増幅検査：
B 型肝炎ウイルス検査、C 型肝炎ウイルス検査、E 型肝炎ウイルス検査、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）検査



検査作業



検査機器

このほか、必要に応じて HLA 関連検査（HLA 抗原検査・HLA 抗体検査・血小板抗体検査）、まれな血液型検査、サイトメガロウイルス抗体検査等を行って、患者さんに適合した輸血用血液製剤を供給しています。

●製 剤

現在の輸血医療は必要な成分を輸血するために成分ごとに輸血用血液製剤として調製されます。また、輸血による副作用を予防するために保存前に白血球の大部分を取り除き、血漿製剤以外には、放射線を照射しています。このように安全性の高い血液製剤の製造を行っています。



血液成分の分離作業



放射線照射作業



フィルトレーション作業（白血球除去）

●品質管理

輸血用血液製剤及び血漿分画製剤用原料血漿の安全性、品質及び均質性の確保を図るために、受入試験にて原料・資材・試薬の品質確認を実施しています。また、製品抜取試験（製品試験、無菌試験、凝固試験）、白血球数試験を実施し、各製剤の品質の確認を実施しています。

さらに、「医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理規則（GMP省令）」に規定されている要件を遵守して、各部門の作業が適正に行われているかを管理しています。



クリーンベンチ（無菌試験用）



無菌試験（培地）

供給の概況

群馬県赤十字血液センターでは12台の献血運搬車を配備しています。24時間365日体制で、県内すべての医療機関からの注文に対し、必要な輸血用血液製剤を供給しています。また、要請に応じて緊急輸送も行っており、188件の要請がありました。

献血由来の血漿分画製剤は、平成27年3月末日を以って販売中止となりました。

令和6年度の県内供給数は78,218本で、前年度に対しては342本減少（前年度比99.5%）しました。

供給単位数では281,839単位で、前年度※に対しては6,692単位減少（前年度比97.7%）しました。

※比較のため前年度の血漿製剤単位を平成29年度からの単位換算に変更して算出

1. 血小板製剤

供給単位数は151,065単位で、前年度に対して8,360単位減少（前年度比94.8%）でした。血小板減少症を伴う疾患や大量出血時などに使用され、今日の輸血医療においては欠かすことのできない血液製剤であり、総供給数に占める血小板製剤の構成比は53.7%と最も高くなっています。全国的な需要傾向（全国平均前年比98.6%）に対して、当県においては前年度より減少しました。

平成28年9月13日から、照射洗浄血小板-LR「日赤」及び照射洗浄血小板HLA-LR「日赤」の供給を開始しました。

2. 血漿製剤

供給単位数※は27,398単位で、前年度に対して322単位増加（前年度比101.2%）でした。全国的な需要傾向（全国平均前年比101.0%）に対して、当県においては前年度より若干増加しました。

※平成29年度より200mL献血由来製剤を1単位、400mL献血由来製剤を2単位、成分献血由来製剤を4単位として換算

3. 赤血球製剤

供給単位数※は103,374単位で、前年度に対して1,334単位増加（前年度比101.3%）でした。全国的な需要傾向（全国平均前年比100.7%）に対して、当県においては前年度より若干増加しました。

※200mL献血由来製剤を1単位、400mL献血由来製剤を2単位として換算

4. 全血製剤

令和6年度は供給がありませんでした。

医薬情報活動の概況

医療機関に供給された血液製剤は、必要な情報（品質・有効性・安全性等）が付加されてはじめて適正に使用されます。その情報を「医療関係者に提供し、使用された際の情報を収集し、適切に分析・評価された結果を医療関係者へフィードバックする」これら一連の役割を担っているのが医薬情報担当者（MR：Medical Representative）で、学術情報・供給課 学術係がその業務を行っています。なかでも、輸血に伴う副作用・感染症自発報告症例を医療関係者から情報収集し分析・評価することは、血液製剤の安全対策にも反映される重要な業務と位置づけられており、平成30年1月には副作用・感染症における調査方法が一部変更されました。また、血液製剤の取り扱いに関する問い合わせへの対応や医療関係者への勉強会を実施することで、有限で貴重な血液製剤を適正に使用して頂くよう活動しています。

安全かつ適正な輸血療法を目指すため、平成18年には県内医療機関、行政、血液センターが三位一体となった「群馬県合同輸血療法委員会」が設置され、事務局として委員会の活動を支援しています。平成29年度には委員会内に輸血関連看護師会を新たに設置し、県内の学会認定・臨床輸血看護師を中心に活動を開始しました。輸血実態調査については、昨年度に引き続き小規模医療機関での輸血実施体制をテーマに調査を行い、令和6年度群馬県合同輸血療法委員会総会・講演会の総会の部で、その調査結果の報告が行われました。併せて、医療機関相互訪問や「輸血に関するQ&A」について県内医療機関の方からご発表頂きました。講演会の部では、安全で適正な輸血療法を推進する活動として、埼玉協同病院 看護部 木村 秀実 先生による『安全な輸血療法を目指した看護師への教育活動』及び東邦大学医療センター大森病院 輸血部 奥田 誠 先生による『「輸血用血液製剤保管管理ガイド」について』のご講演を頂きました。



医療関係者への情報提供



医療機関での輸血勉強会



群馬県合同輸血療法委員会

統計資料

令和6年度 献血状況

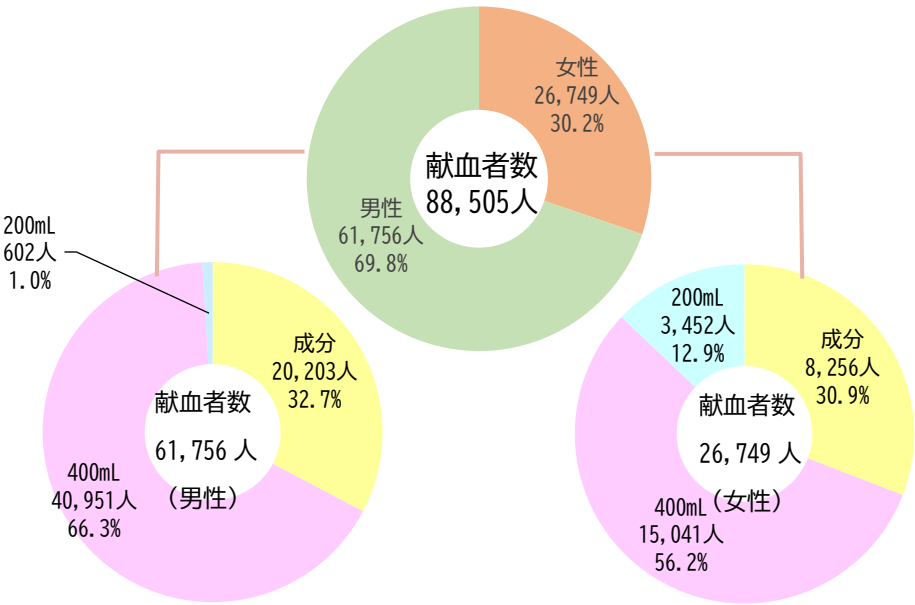
…200m L 献血

…400m L 献血

…成分献血採血

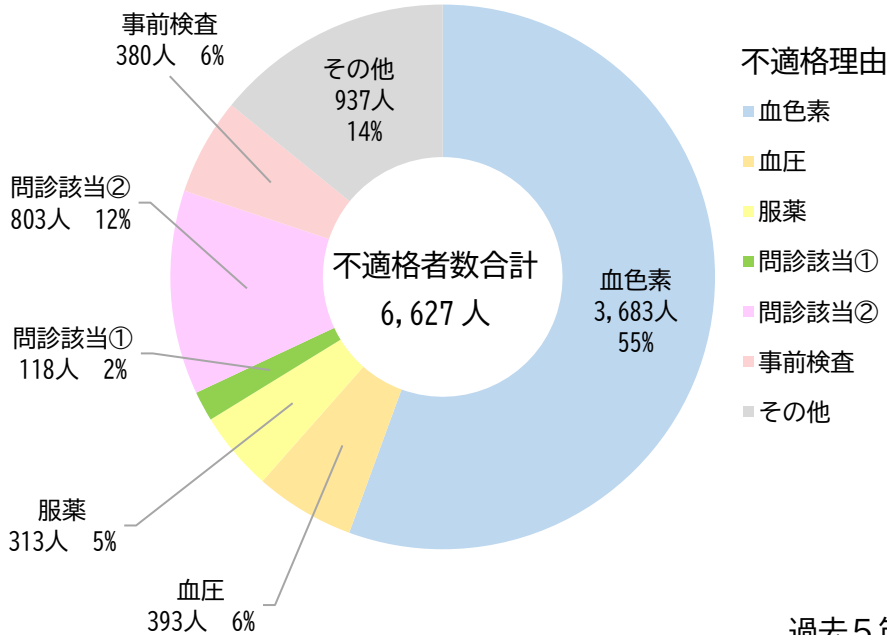
(人)

項目 年月	献血ルーム		採 血 車		出 張		計			
	受付 人数	採血 人数	受付 人数	採血 人数	受付 人数	採血 人数	受付 人数	採血 人数	男	女
令和6年 度計	53,850	50,426	41,208	38,009	74	70	95,132	88,505	61,756	26,749
		28,459		0		0		28,459	20,203	8,256
		21,400		34,533		59		55,992	40,951	15,041
		567		3,476		11		4,054	602	3,452



献血出来なかった人の状況

令和6年度 献血不適格者数	不適者 6,627人 7.8 %	適格者 88,505人 92.2%	受付者数 95,132人
------------------	---------------------	----------------------	-----------------



過去5年間の状況

血色素	...	血色素量が希望献血種類の採血基準に適合しない場合
血圧	...	血圧値が採血基準に適合しない場合
服薬	...	注射・服薬の薬物使用を理由にお断りした場合
問診該当①	...	チガソン服用、ヒト由来プラセンタ注射歴のある人、 B型肝炎ウイルス保有者、慢性B型肝炎に罹患した人、 C型肝炎・梅毒・マラリア・バベシア症・シャーガス病・ リーシュマニア症・アフリカトリパノソーマ症の既往、 vCJDに関連した欧州滞在歴、HIV関連事項、 輸血歴・臓器移植のある人
問診該当②	...	クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）の関連事項 問診該当①以外に問診上不適格な理由がある場合（体調 不良、海外帰国後4週間以内等）
事前検査	...	血算、心電図検査、体温（37.5℃以上）、脈拍数で不適格 の場合
その他	...	献血者の意思変更、血管が細い、本採血前のVWR、などの理由で不適格の場合

不適格率	
令和2年度	8.1%
令和3年度	7.8%
令和4年度	8.1%
令和5年度	8.8%
令和6年度	7.0%

献血不適格者の状況

単位：人

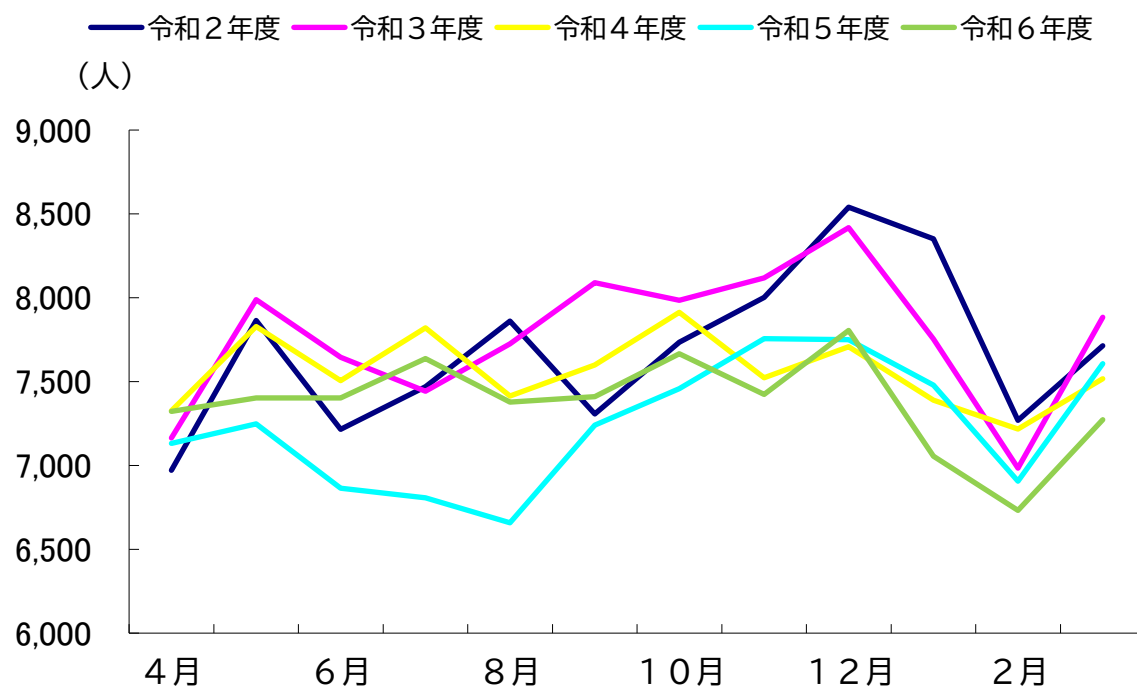
不適理由	血色素	血圧	服薬	問診該当①	問診該当②	事前検査	その他	合計
男	994	264	192	64	493	253	397	2,657
女	2,689	129	121	54	310	127	540	3,970
合計	3,683	393	313	118	803	380	937	6,627

令和6年度 市町村別献血者数

令和6年度 市町村別献血者数										
	人口 (A)	受付者数	全血献血数			成分献血			総献血者 数 (B)	献血率(%) (B)/(A)
			200mL	400mL	計	血小板成分	血漿成分	計		
合 計	1,883,372	95,132	4,054	55,992	60,046	8,614	19,845	28,459	88,505	4.7%
前橋ルーム		16,760	204	6,287	6,491	2,875	6,491	9,366	15,857	
高崎ルーム		19,883	266	8,178	8,444	2,905	7,217	10,122	18,566	
太田ルーム		17,207	97	6,935	7,032	2,834	6,137	8,971	16,003	
管内 合計		41,282	3,487	34,592	38,079	0	0	0	38,079	
前橋市	325,659	8,425	689	7,008	7,697	0	0	0	7,697	2.4%
前橋市保健所管内 計	325,659	8,425	689	7,008	7,697	0	0	0	7,697	2.4%
高崎市	366,144	6,969	812	5,648	6,460	0	0	0	6,460	1.8%
高崎市保健所管内 計	366,144	6,969	812	5,648	6,460	0	0	0	6,460	1.8%
渋川市	70,492	1,686	195	1,349	1,544	0	0	0	1,544	2.2%
榛東村	14,145	497	6	470	476	0	0	0	476	3.4%
吉岡町	22,674	815	21	752	773	0	0	0	773	3.4%
保健福祉事務所管内 計	107,311	2,998	222	2,571	2,793	0	0	0	2,793	2.6%
伊勢崎市	210,460	6,440	190	5,766	5,956	0	0	0	5,956	2.8%
玉村町	35,213	608	64	492	556	0	0	0	556	1.6%
保健福祉事務所管内 計	245,673	7,048	254	6,258	6,512	0	0	0	6,512	2.7%
安中市	51,711	791	44	701	745	0	0	0	745	1.4%
保健福祉事務所管内 計	51,711	791	44	701	745	0	0	0	745	1.4%
藤岡市	60,225	1,346	108	1,138	1,246	0	0	0	1,246	2.1%
上野村	987	38	3	33	36	0	0	0	36	3.6%
神流町	1,391	42	0	41	41	0	0	0	41	2.9%
保健福祉事務所管内 計	62,603	1,426	111	1,212	1,323	0	0	0	1,323	2.1%
富岡市	44,608	1,094	67	937	1,004	0	0	0	1,004	2.3%
下仁田町	5,616	81	6	68	74	0	0	0	74	1.3%
南牧村	1,293	9	0	9	9	0	0	0	9	0.7%
甘楽町	11,865	96	7	82	89	0	0	0	89	0.8%
保健福祉事務所管内 計	63,382	1,280	80	1,096	1,176	0	0	0	1,176	1.9%
中之条町	14,163	280	36	222	258	0	0	0	258	1.8%
長野原町	4,659	102	5	90	95	0	0	0	95	2.0%
嬬恋村	8,328	142	11	120	131	0	0	0	131	1.6%
草津町	5,839	107	4	95	99	0	0	0	99	1.7%
高山村	3,121	25	0	23	23	0	0	0	23	0.7%
東吾妻町	11,393	593	18	530	548	0	0	0	548	4.8%
保健福祉事務所管内 計	47,503	1,249	74	1,080	1,154	0	0	0	1,154	2.4%
沼田市	41,843	1,057	148	845	993	0	0	0	993	2.4%
片品村	3,593	113	4	93	97	0	0	0	97	2.7%
川場村	3,206	153	6	129	135	0	0	0	135	4.2%
昭和村	6,611	169	12	145	157	0	0	0	157	2.4%
みなかみ町	15,744	567	40	485	525	0	0	0	525	3.3%
保健福祉事務所管内 計	70,997	2,059	210	1,697	1,907	0	0	0	1,907	2.7%
太田市	221,849	3,905	326	3,266	3,592	0	0	0	3,592	1.6%
保健福祉事務所管内 計	221,849	3,905	326	3,266	3,592	0	0	0	3,592	1.6%
桐生市	98,556	1,845	336	1,380	1,716	0	0	0	1,716	1.7%
みどり市	47,786	531	28	461	489	0	0	0	489	1.0%
保健福祉事務所管内 計	146,342	2,376	364	1,841	2,205	0	0	0	2,205	1.5%
館林市	73,308	1,352	171	1,049	1,220	0	0	0	1,220	1.7%
板倉町	13,198	184	19	152	171	0	0	0	171	1.3%
明和町	10,458	242	34	186	220	0	0	0	220	2.1%
千代田町	10,398	211	7	188	195	0	0	0	195	1.9%
大泉町	42,012	536	58	442	500	0	0	0	500	1.2%
邑楽町	24,824	231	12	197	209	0	0	0	209	0.8%
保健福祉事務所管内 計	174,198	2,756	301	2,214	2,515	0	0	0	2,515	1.4%

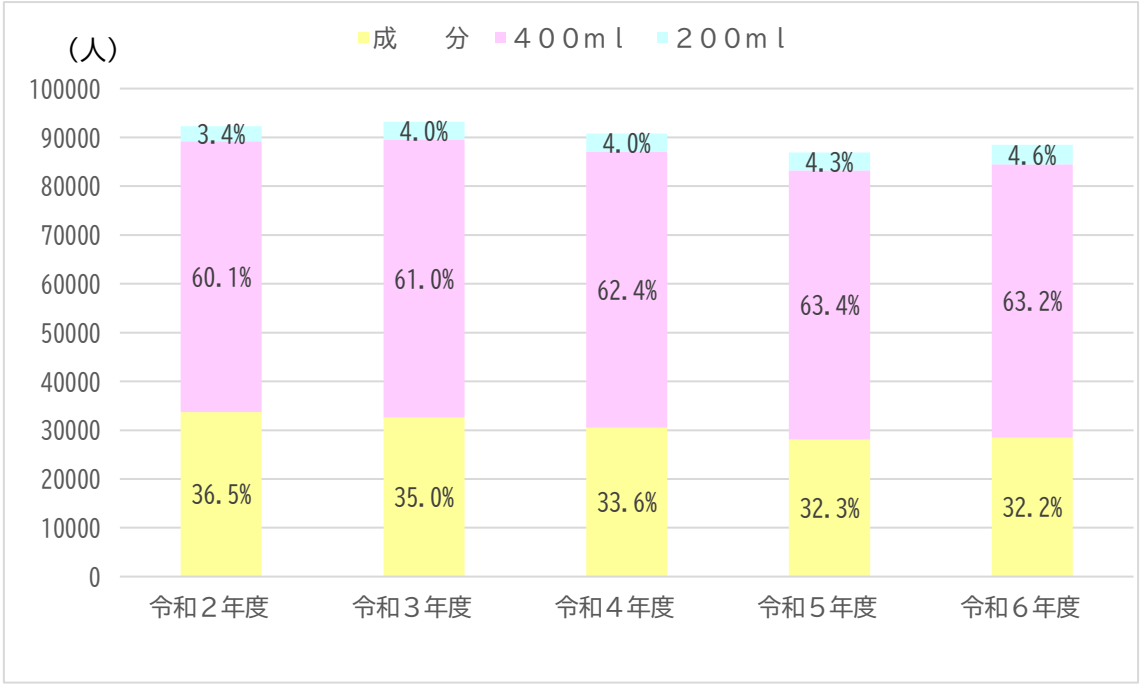
人口データ：群馬県企画部統計課作成「移動人口調査」令和7年3月1日現在

過去5年間の月別献血状況



(人)

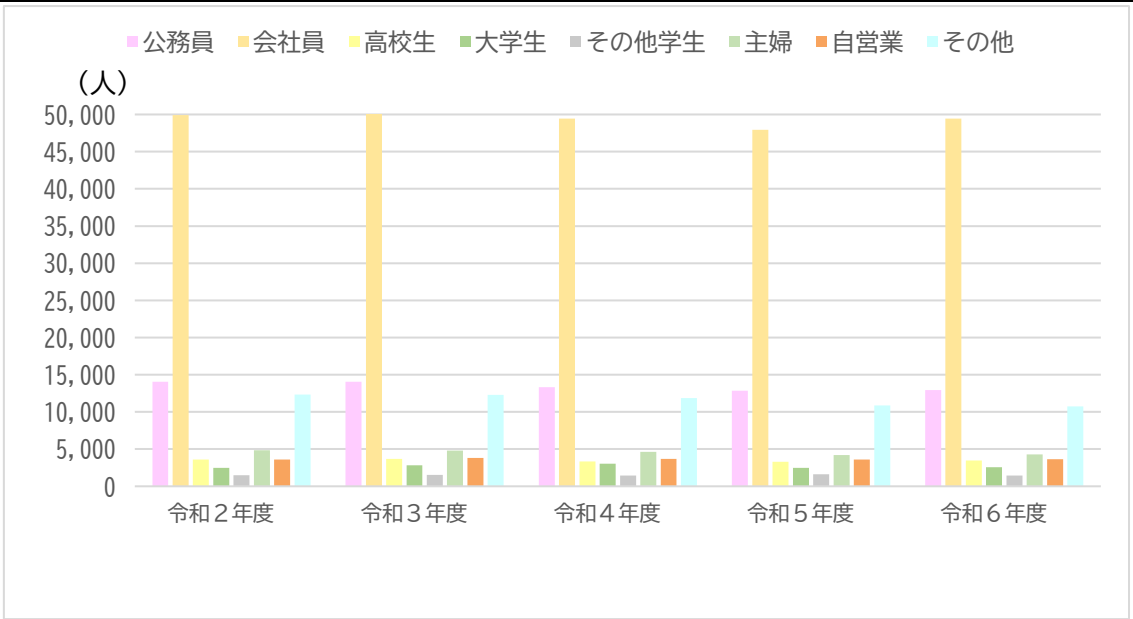
過去5年間の採血別別献血状況



年度 種別	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
成分	33,730	32,584	30,498	28,096	28,459
400ml	55,448	56,867	56,619	55,113	55,992
200ml	3,121	3,748	3,643	3,697	4,054
合計	92,299	93,199	90,760	86,906	88,505

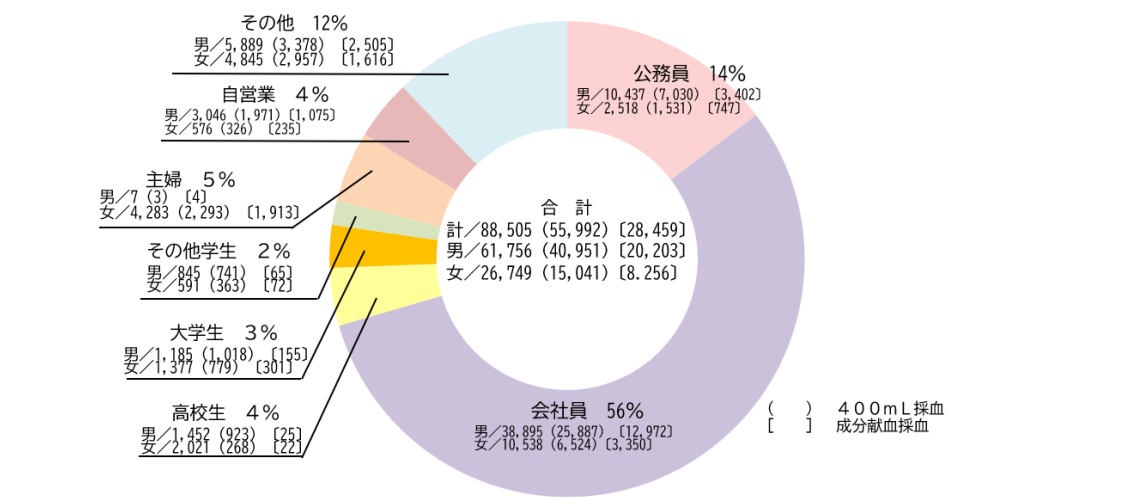
(人)

過去5年間の職業別献血者状況

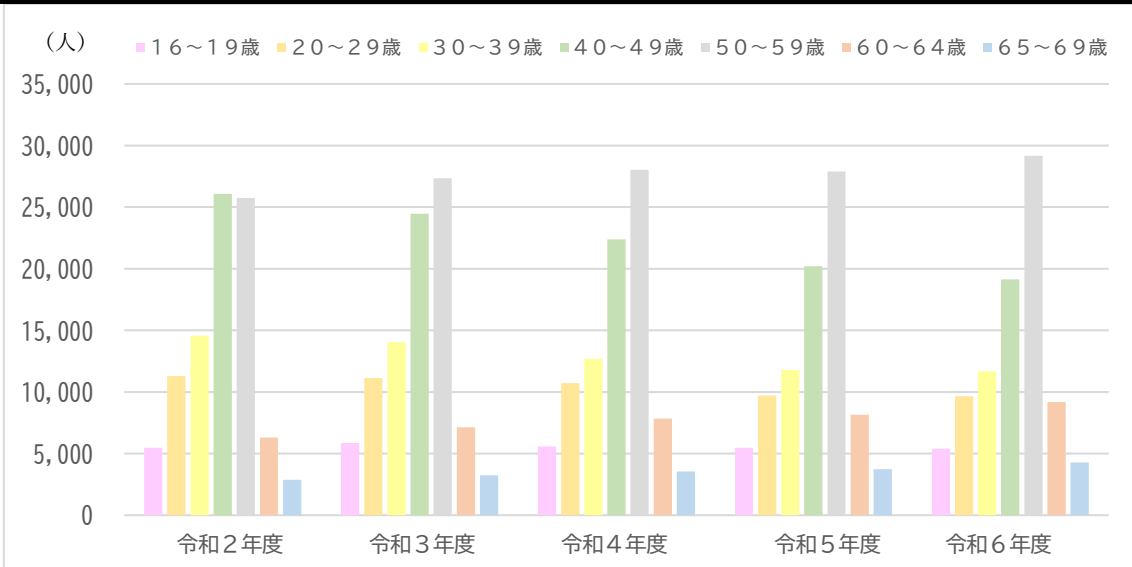


職業別 \ 年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
公務員	14,055	14,067	13,317	12,849	12,955
会社員	49,913	50,204	49,441	47,933	49,433
高校生	3,601	3,691	3,323	3,312	3,473
大学生	2,465	2,819	3,032	2,484	2,562
その他学生	1,491	1,522	1,465	1,628	1,436
主婦	4,860	4,803	4,651	4,219	4,290
自営業	3,577	3,805	3,673	3,597	3,622
その他	12,337	12,288	11,858	10,884	10,734
合計	92,299	93,199	90,760	86,906	88,505

令和6年度職業別献血者数 (人)



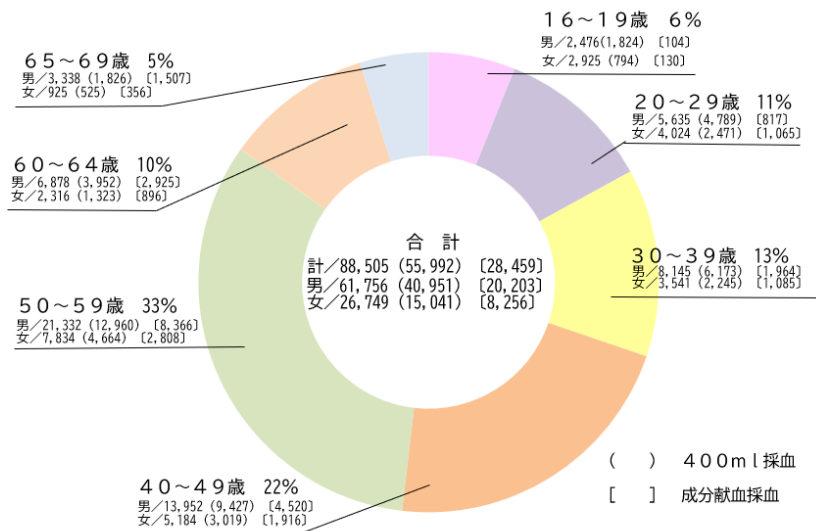
過去5年間の年齢別献血状況



年度 年齢別	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
16～19歳	5,460	5,851	5,580	5,465	5,401
20～29歳	11,293	11,127	10,727	9,702	9,659
30～39歳	14,562	14,038	12,695	11,784	11,686
40～49歳	26,071	24,472	22,372	20,198	19,136
50～59歳	25,732	27,348	28,015	27,877	29,166
60～64歳	6,296	7,138	7,822	8,147	9,194
65～69歳	2,885	3,225	3,549	3,733	4,263
合 計	92,299	93,199	90,760	86,906	88,505

令和6年度年齢別献血者数

(人)



血液型別供給本数（管内）

（単位：本）

全血製剤	販売名	略号	A 型	O 型	B 型	AB 型	合計
	人全血液-LR 「日赤」	WB-LR-1	0	0	0	0	0
		WB-LR-2	0	0	0	0	0
	照射人全血液-LR 「日赤」	Ir-WB-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-WB-LR-2	0	0	0	0	0
		合 計	0	0	0	0	0

赤血球製剤	販売名	略号	A 型	O 型	B 型	AB 型	合計
	赤血球液-LR 「日赤」	RBC-LR-1	0	0	0	0	0
		RBC-LR-2	946	800	545	207	2,498
	照射赤血球液-LR 「日赤」	Ir-RBC-LR-1	1,022	795	577	212	2,606
		Ir-RBC-LR-2	17,833	15,080	10,300	4,662	47,875
	洗浄赤血球液-LR 「日赤」	WRC-LR-1	0	0	0	0	0
		WRC-LR-2	0	0	0	0	0
	照射洗浄赤血球液-LR 「日赤」	Ir-WRC-LR-1	0	0	4	0	4
		Ir-WRC-LR-2	0	0	8	1	9
	解凍赤血球液-LR 「日赤」	FTRC-LR-1	0	0	0	0	0
		FTRC-LR-2	0	0	0	0	0
	照射解凍赤血球液-LR 「日赤」	Ir-FTRC-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-FTRC-LR-2	0	0	0	0	0
	合成血液-LR 「日赤」	BET-LR-1	0	0	0	0	0
		BET-LR-2	0	0	0	0	0
	照射合成血液-LR 「日赤」	Ir-BET-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-BET-LR-2	1	0	0	0	1
		合 計	19,802	16,675	11,434	5,082	52,993

*平成 26 年 8 月より、赤血球濃厚液-LR「日赤」RCC-LR、照射赤血球濃厚液-LR「日赤」Ir-RCC-LR は、赤血球液-LR「日赤」RBC-LR、照射赤血球液-LR「日赤」Ir-RBC-LR へ変更。

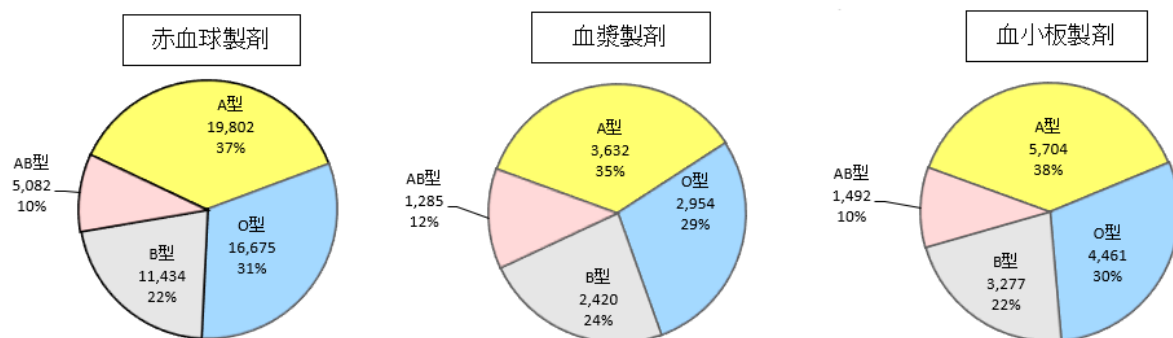
(単位：本)

血漿製剤	販売名	略号	A 型	O 型	B 型	AB 型	合計
	新鮮凍結血漿- LR「日赤」120	FFP-LR 120	18	30	11	13	72
	新鮮凍結血漿- LR「日赤」240	FFP-LR 240	2,349	2,006	1,539	881	6,775
	新鮮凍結血漿- LR「日赤」480	FFP-LR 480	1,265	918	870	391	3,444
		合 計	3,632	2,954	2,420	1,285	10,291

*平成 25 年 9 月より、新鮮凍結血漿-LR「日赤」FFP-LR-1・FFP-LR-2・FFP-LR-Ap は、FFP-LR 120・FFP-LR 240・FFP-LR 480 へ変更。

血小板製剤	販売名	略号	A 型	O 型	B 型	AB 型	合計
	濃厚血小板-LR 「日赤」	PC-LR-1	0	0	0	0	0
		PC-LR-2	0	0	0	0	0
		PC-LR-5	0	0	0	0	0
		PC-LR-10	123	152	46	50	371
		PC-LR-15	0	0	0	0	0
		PC-LR-20	1	0	0	0	1
	照射濃厚血小板- LR「日赤」	Ir-PC-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-PC-LR-2	0	0	0	0	0
		Ir-PC-LR-5	5	8	5	2	20
		Ir-PC-LR-10	5,158	4,074	2,998	1,378	13,608
		Ir-PC-LR-15	0	3	1	0	4
		Ir-PC-LR-20	49	49	38	10	146
	濃厚血小板 HLA- LR「日赤」	PC-HLA-LR-10	0	8	0	0	8
		PC-HLA-LR-15	0	0	0	0	0
		PC-HLA-LR-20	0	0	0	0	0
	照射濃厚血小板 HLA-LR「日赤」	Ir-PC-HLA-LR-10	189	137	77	11	414
		Ir-PC-HLA-LR-15	3	4	2	0	9
		Ir-PC-HLA-LR-20	2	26	0	1	29
	照射洗浄血小板- LR「日赤」	Ir-WPC-LR	173	0	108	21	302
	照射洗浄血小板 HLA-LR「日赤」	Ir-WPC-HLA-LR	1	0	2	19	22
		合 計	5,704	4,461	3,277	1,492	14,934

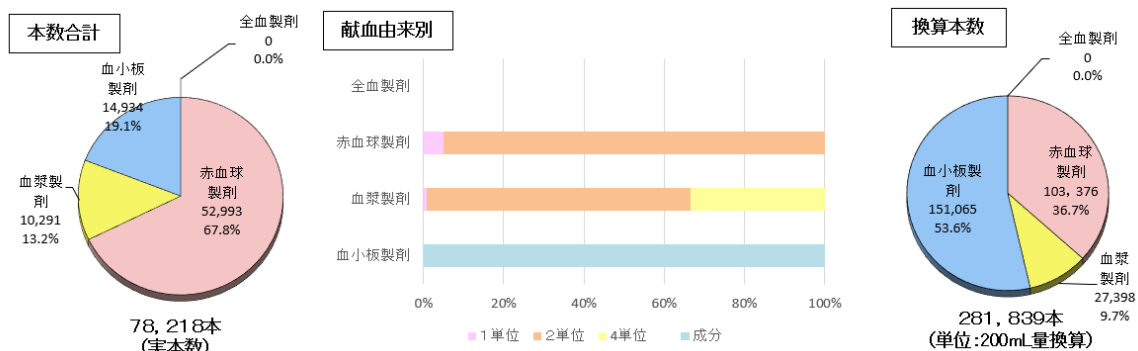
*平成 28 年 9 月より、照射洗浄血小板-LR「日赤」、照射洗浄血小板 HLA-LR「日赤」供給開始



血液製剤種類別供給数（管内）

（単位：本）

	1 単位 製剤	2 単位 製剤	4 単位 製剤	成 分				本数 合計	換算 本数
				5 単位	1 0 単位	1 5 単位	2 0 単位		
全血製剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
赤血球製剤	2, 610	50, 383	0	0	0	0	0	52, 993	103, 376
血漿製剤	72	6, 775	3, 444	0	0	0	0	10, 291	27, 398
血小板製剤	0	0	0	20	14, 725	13	176	14, 934	151, 065
合計	2, 682	57, 158	3, 444	20	14, 725	13	176	78, 218	281, 839

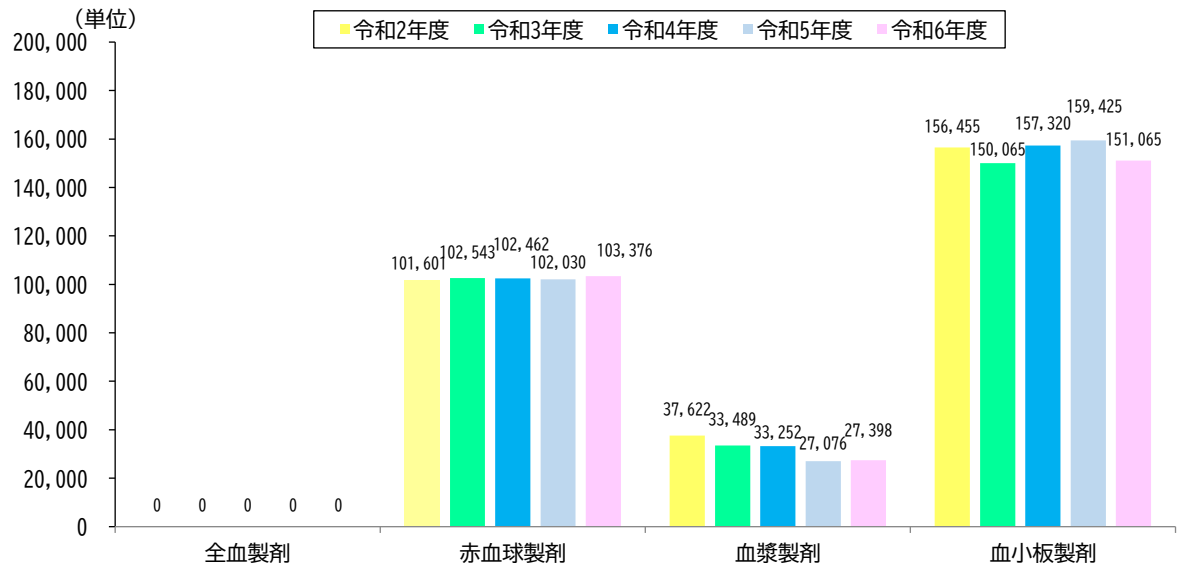


輸血用血液製剤の推移（管内）

（単位：200mL 量換算）

	合計	全血製剤	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤
令和 2 年度	295, 678	0	101, 601	37, 622	156, 455
令和 3 年度	286, 097	0	102, 543	33, 489	150, 065
令和 4 年度	293, 034	0	102, 462	33, 252	157, 320
令和 5 年度	288, 531	0	102, 030	27, 076	159, 425
令和 6 年度	281, 839	0	103, 376	27, 398	151, 065

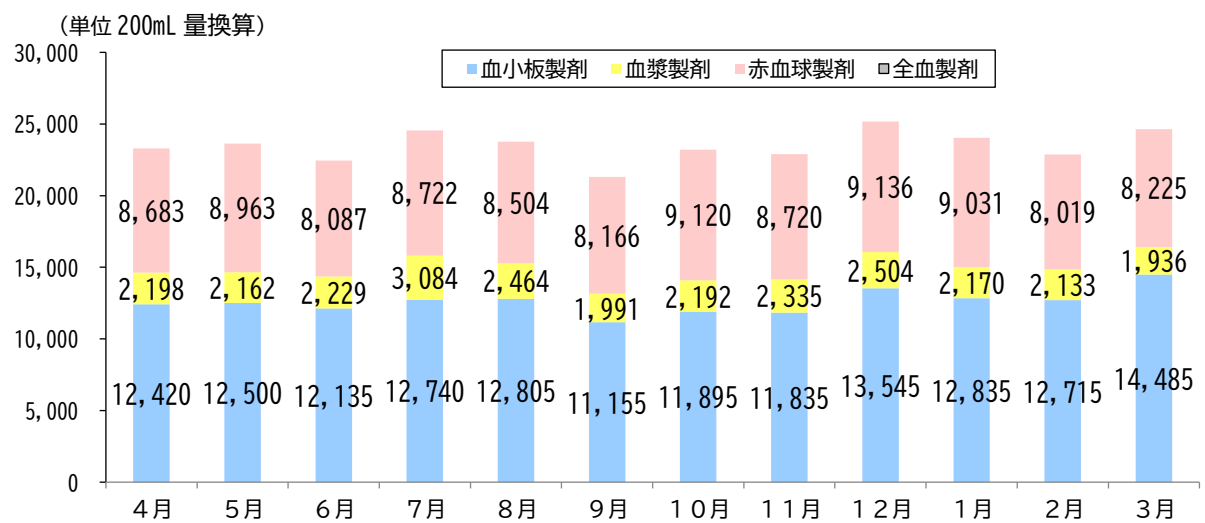
※平成29年度より血漿製剤の単位換算を変更



月別供給本数（管内）

（単位：200mL 量換算）

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全血製剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
赤血球製剤	103,376	8,683	8,963	8,087	8,722	8,504	8,166	9,120	8,720	9,136	9,031	8,019	8,225
血漿製剤	27,398	2,198	2,162	2,229	3,084	2,464	1,991	2,192	2,335	2,504	2,170	2,133	1,936
血小板製剤	151,065	12,420	12,500	12,135	12,740	12,805	11,155	11,895	11,835	13,545	12,835	12,715	14,485
合計	281,839	23,301	23,625	22,451	24,546	23,773	21,312	23,207	22,890	25,185	24,036	22,867	24,646



令和6年度 表彰（団体のみ表記）

群馬県と日本赤十字社群馬県支部は、献血協力者への感謝とともに県民各層に対し、一層の献血思想の普及と献血運動の推進を図るため、「群馬県献血功労者等表彰式」を開催し献血のご功労のあった方々を表彰しております。（敬称略）

■厚労大臣 表彰状

デンカ株式会社 渋川工場

■厚労大臣 感謝状

群馬中央医療生活協同組合 前橋協立病院

公益財団法人 群馬県健康づくり財団

東毛リゾート開発株式会社

■群馬県献血推進特別功労者（団体）

FDK株式会社 高崎工場

渋川ライオンズクラブ

群馬県立藤岡工業高等学校

群馬県立伊勢崎興陽高等学校

コーセイインダストリーズ株式会社 群馬工場

ヤマト発動機株式会社

■群馬県献血推進協議会長感謝状

群馬県農業共済組合

医療法人社団美心会 黒沢病院

群馬県立高崎北高等学校

一般社団法人 渋川青年会議所

桐生中央ライオンズクラブ

株式会社ヤマダホールディングス

技研コンサル株式会社

群馬クレインサンダーズ

■日本赤十字社社長感謝状

群馬県立前橋高等学校

サンデン株式会社 八斗島事業所

小倉クラッチ株式会社

■献血団体 金色有功章（20年以上）

群馬県立県民健康科学大学
ALSOK群馬株式会社
公立大学法人 前橋工科大学

■献血団体 群馬県支部長感謝状金枠（10年以上）

安中警察署
株式会社シムラリネンサプライ

■献血推進団体 金色有功章（20年以上）

株式会社ジョイフル本田新田店
大間々ショッピングセンター さくらもーる

■献血推進団体 銀色有功章（15年以上）

株式会社バイシア 渋川店
吉井ライオンズクラブ

■献血推進団体 群馬県支部長感謝状銀枠（5年以上）

株式会社バイシア 渋川こもち店

令和6年度迄の献血記録

項 目	年 月 日	献血者数	摘 要	備 考
開設以来延献血者数	令和7年3月末日	4,976,571	自昭和37年11月 至令和7年3月	
開設以来母体延献血者数	平成10年8月末日	228,910	自昭和37年11月 至平成10年8月	
開設以来献血ルーム延献血者数	令和7年3月末日	1,225,696	自平成5年10月 至令和7年3月	
開設以来採血車延献血者数	令和7年3月末日	3,409,278	自昭和37年11月 至令和7年3月	
開設以来出張延献血者数	令和7年3月末日	112,687	自平成2年4月 至令和7年3月	
年間最高人数	昭和60年度	131,336		
月間最高人数	昭和60年7月	13,420		配車台数114台
母体一日最高人数	平成7年1月21日	168		
献血ルーム一日最高人数	平成10年9月1日	140	前橋ハートランド オープニング	
出張採血一日最高人数	平成3年1月7日	230	県庁	
採血車一日最高人数	昭和60年11月19日	861		配車台数5台
採血車一台最高人数	昭和55年6月13日	311	渋川高等学校	
市民献血一日最高人数	昭和59年2月16日	356	桐生市	配車台数3台
町民献血一日最高人数	昭和63年9月9日	175	大間々町	
官庁献血一日最高人数	平成2年1月5日	327	県庁	配車台数2台
事業所献血一日最高人数	昭和60年2月27日	596	沖電気高崎事業所	配車台数3台
大学献血一日最高人数	昭和60年6月26日	311	群馬大学教育学部	配車台数2台
高校献血一日最高人数	昭和61年1月20日	546	高崎工業高等学校	配車台数3台
団体献血一日最高人数	昭和54年8月29日	420	大間々ライオンズ クラブ	配車台数2台

施設別年間最高献血本数

項 目	年 月 日	献血者数	摘 要	備 考
市民献血	昭和59年度	2, 877	桐生市	配車台数延29台
町民献血	平成4年度	941	玉村町	配車台数延14台
村民献血	昭和61年度	724	笠懸町	配車台数延5台
官庁献血	平成元年度	1, 339	県庁	配車台数延9台
事業所献血	昭和61年度	3, 589	三洋電機東京製作所	配車台数延26台
大学献血	昭和60年度	1, 257	群馬大学教育学部	配車台数延10台
高校献血	平成元年度	1, 197	樹徳高校	配車台数延6台
団体献血（主催）	昭和57年度	1, 774	立正佼成会高崎協会	配車台数延16台
団体献血（協力）	平成11年度	4, 202	群馬県学生献血推進連合	献血実施場所延72箇所

あ ゆ み

令和 7 年 8 月

編 集 群馬県赤十字血液センター総務課
発 行 群馬県赤十字血液センター

〒379-2154 前橋市天川大島町2-31-13

電 話 027-224-2118

<https://www.bs.jrc.or.jp/ktks/gunma/>
